

# 1 自己評価及び外部評価結果

## 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4098800032
法人名	医療法人 けやき会 東病院
事業所名	グループホーム けやき
所在地	福岡県 築上郡 吉富町 大字 広津 603番地2
自己評価作成日	平成24年3月11日

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先	<a href="http://kohyo.fkk.jp/kaigosip/Top.do">http://kohyo.fkk.jp/kaigosip/Top.do</a>
----------	---

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 アーバン・マトリックス 評価事業部		
所在地	福岡県北九州市小倉北区紺屋町4-6 北九州ビル8階		
訪問調査日	平成24年3月31日	評価結果確定日	平成24年7月19日

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

医療法人けやき会東病院は京築地区唯一の一般病院であり、介護施設や急性期病院と密に連携し、亜急性期から終末期まであらゆる患者様を受け入れています。法人の所在地である吉富町は高齢化が進んでおり、地域の人々が安心して医療・看護・介護を受けることができるようにという、方針のもとグループホームけやき・小規模多機能ホームけやきを平成23年度に開設しました。家庭的な環境の中で、家族と自宅で過ごしているような雰囲気与生活を過ごすことができます。地域密着型サービスの利点を活かし、地域行事への参加や近隣住民との交流を図ることなどに力をいれています。また、施設に隣接する菜園では旬の野菜を育てたり、収穫することもできます。急変時や終末期も隣接する同法人の病院との連携がスムーズに行えることが強みであります。

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

グループホームけやきは、木造2階建て1ユニットの事業所である。階下に小規模多機能ホームを有する。近隣には、母体である医療法人が運営する病院を始め、医療・福祉関連の事業所が複数ある。本事業所は、独自の理念のもと、研修を始め、委員会活動や、防災対策等、平素から多方面にわたり、各事業所と密接な連携を図りながら、利用者主体の介護・支援に努めている。中でも、年度当初の計画を、中間評価をもって検証する仕組みや、内外の職員研修、及び資格取得の奨励を通してのスキルアップの方策、託児所を始めとする福利厚生の実等は、特筆に値する。また地域や家族との連携もよく取れており、運営推進会議や行事、家族会だけでなく、日常的に地域住民の出入りがあり、随時協力を仰ぎながら、畑作業や、伝統行事への参加が継続して行われる等、開かれた事業所作りがなされている。高齢化が進む地域の中にあつて、当事業所は法人内で培われたネットワークとスキルを活かしながら、その独自性を発揮し、地域コミュニティー活性化に寄与しながら、入居者一人ひとりの思いに寄り添った支援を試みている。今後の展開が楽しみな事業所である

サービスの成果に関する項目(アウトカム項目)		項目 1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します	
項目	取り組みの成果 該当するものに印	項目	取り組みの成果 該当するものに印
58	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:25,26,27)	65	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,21)
59	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:20,40)	66	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,22)
60	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:40)	67	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
61	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:38,39)	68	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)
62	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:51)	69	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
63	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:32,33)	70	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
64	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:30)		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>理念に基づく運営</b>					
1	(1)	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業計画に法人理念を掲げ、それに基づき事業所の年間目標を作成し、中間評価・最終評価を行うことにより、事業所理念を中心にしたサービスを提供し、評価している。	母体の医療法人の理念を踏まえ、事業所設立時に、職員間で話し合い、独自の理念(「キャッチフレーズ」と称している)「咲顔・笑顔・縁顔」を作成している。これを基に年度ごとに総合目標、方針・目標を設定している。毎月の職員会議で、振り返りを行うとともに、中間評価、総合評価を行うことで、職員間で共有を図り、より実践的であるよう努めている。	
2	(2)	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域主催の行事など(祭り・運動会・どんど焼きなど)に参加することや、地域ボランティアの慰問を積極的に取り組んでいる。また、近隣住民の方との交流についても遊びにきていただいたり、野菜の栽培の指導を受けたりと交流を進めている。	近隣住民の出入りが日常的にあり、畑作りの支援や、地域行事の案内を受けることで、地域とのつきあいが広がっている。特に季節の行事には、定期的に参加しており、入居前の暮らし・習慣の継続が地域の中で実現している。また階下の小規模多機能ホーム利用者とも日常的に交流が図られている。	
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	23年度は利用者家族、職員とで認知症についての合同勉強会をおこなったが、しかし地域の人々参加にまでは至っていない。次年度はこの勉強会に地域の人々に参加していただけないか検討している。		
4	(3)	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	利用者の生活状況報告(事業報告・ヒヤリハット報告・事故報告)などを行い意見交換を行っている。行方不明者捜索時や災害対策時の協力体制の確認などを運営推進会議でまとめることができた。	2ヶ月に1回実施している。参加者は、自治会長、役場職員、地域包括職員、民生委員、近隣住民、家族会代表と幅広い。議事録から、運営状況報告や、制度等の説明、情報交換や相談等が行われていることが確認出来る。	
5	(4)	市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市町村担当者・地域包括支援センター職員と定期の運営推進会議で意見交換を行っている。また随時報告・連絡・相談をおこない協力関係を築いている。	町担当者とは、運営推進会議だけでなく、日常的に情報交換、質問、相談、提案等を行っており、互いに顔の見える良好な協力関係を築いている。	
6	(5)	身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束排除マニュアルを作成し、職員が閲覧できるように環境を整え、禁止項目を理解してもらっている。また、そのことを念頭に置き管理者を中心にケアに取り組んでいる。	職員は、身体拘束の対象となる具体的な行為や、弊害等を周知し、拘束をしないケアの実践に努めている。特に言葉による拘束にも留意し、言葉遣いに配慮しながら、一人ひとりの尊厳を守るよう意識付けを図っている。	
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	23年度は高齢者虐待防止法について勉強会を行うことが出来た。その中で虐待の区分や定義、事例などを学習し、養介護施設従事者としての通報・報告義務を確認した。		

福岡県 グループホーム けやき

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8	(6)	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護についての研修に参加し、その中で成年後見制度の概要や利用方法などを確認した。また、認知症介護実践者研修の中でも権利擁護について学習できた。	実際に制度利用者もいることから、職員は制度の意義、内容について周知している。また外部研修等に参加し、更なる理解に努めている。入居者や家族からの求めに応じて、説明を行っている。	
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	利用契約書に基づき、利用料金をはじめ疑問点を聞き出しながら、時間をかけて説明して同意を得ている。施設玄関にいつでも契約書内容を閲覧できるようにしている。		
10	(7)	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご意見箱や苦情受付窓口の設置により、利用者またはご家族の意見が反映できるように取り組んでいる。また、家族会規約目的の中で会員より申し出があった場合、相談に応じ法人への申し入れができることとしている。	家族会があり、年に1回総会が開催されている。出席率は8割程である。その中で、質問や相談、要望を受け付け、話し合いながら、運営に反映させている。また毎月、一人ひとりの生活状況を個別に記載し発送する等、細やかな情報発信にも努めている。	
11	(8)	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に1度の会議にて管理者と職員参加の会議を行い意見交換を行っている。23年度は各職員が半年に1回の間隔で管理者と個別に話せる機会を作り、悩みや提案を聞く機会を作ることが出来た。	小規模多機能ホームと合同で、毎月会議を行い、管理者は、意見や要望、困っていること等を聴くように努めている。また委員会活動を通じて、自主的な活動を促し、職員の意見や提案が実現出来るよう努めている。実際に、誕生日会等のイベントや、レクリエーション計画では、職員のアイデア、意見が活かされている。	
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	勤務状況(出勤状況)、資格の取得などにより努力実績により給与水準に反映できるようにしている。また、託児所が整備されており、小さな子供がいる職員も安心して働ける環境を作っている。		
13	(9)	人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようしている。また事業所で働く職員についても、その能力を發揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	職員募集や採用については、性別、年齢などを採用対象にはしていない。	職員の採用にあたっては、性別や年齢等を理由に採用対象から排除することはない。実際に勤務する職員の年齢層も幅広い。法人をあげて、職員のスキルアップを支援しており、資格取得を奨励している。具体的には、勤務調整や費用の半額負担等の配慮を行っており、資格手当でもある。外部研修への参加についても、全職員が年に1回以上参加出来るよう計画的に実施している。また法人内に託児所も完備される等、福利厚生も充実し、働きやすい環境作りがなされている。	
14	(10)	人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	職員としての心構え(資料)や言葉遣い適正に関する方針の中で個人の尊厳や人としての権利などについて研修を行うことができた。	個人の尊厳を大切にすることを年度目標の中に掲げるとともに、倫理綱領や独自の資料を完備し、研修の実施や日常業務を通して、教育・啓発を行っている。特に言葉遣いについて、実務の中で、周知徹底するよう努めている。	

福岡県 グループホーム けやき

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
15		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	月1回以上の法人内研修参加を義務づけるとともに、外部研修案内を閲覧できるようにし、本人の希望や力量を把握した上で外部研修を促進している。今後は職員育成の上でOJTの導入も検討している。		
16		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	当事業者と他近隣の3同業者スタッフと3ヶ月に1回を目安に連絡会議を開催し、意見交換をおこないサービスの質向上に努めている。		
<b>安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
17		初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	サービス導入前の本人との面談を必ず行い、本人が必要としていることが何なのかを適正にアセスメントできるように取り組んでいる。		
18		初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	サービス導入前の家族との面談を必ず行い、家族が困っている内容と本人の望んでいることなどを正しく理解し、納得していただけるように要望などを整理している。		
19		初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人と家族が共に納得できるサービスが提供できるように、当事業所利用以外の選択肢を用意し、複数のサービスの中から本人家族の自己決定により、安心してサービスが、迅速に行われるように努めている。		
20		本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者と職員とで一緒におやつを作ったり、洗濯をしたり、食事を一緒に食べたりすることにより、利用者が一方的に介護される側にならないように取り組んでいる。その中で、生活を共にする家族のような雰囲気を作れるように努めている。		
21		本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	外出や外泊の支援を積極的に行うことで、本人・家族の絆が薄れないように取り組んでいる。また、月に1度ご家族に施設利用時の状況を手紙で書くなどし、職員と家族の絆も深まるように取り組んでいる。		
22	(11)	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの場所に外出支援をしたり、地域の行事に参加することなどにより関係が途切れないように努めている。	入居者に近隣の方が多いことから、要望に応じて自宅や馴染みの場所、店等を訪れたり、慣れ親しんだ地域行事に参加することで、これまで培ってきた関係性が途切れないよう支援している。また行きつけの美容室からの訪問美容を利用する等、社会資源の活用にも努めている。	

福岡県 グループホーム けやき

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
23		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず に利用者同士が関わり合い、支え合えるような 支援に努めている	利用者個人の時間を大切にすると共に、みんな で一緒に過ごせる場面や時間を作れるようにし ている。また人間関係がこじれないように職員が 利用者同士の人間関係の状況を共有し理解で けるように取り組んでいる。		
24		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関 係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族 の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他の事業所に移行する場合には、次の事業所 にこれまでの支援状況を報告するなどしている。 また死亡終了したご家族とも継続して事業所に 遊びに来ていただけるような環境を整えている。		
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
25	(12)	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握 に努めている。困難な場合は、本人本位に検討し ている	利用者の現在の希望を知ると共に、これまでの 生活の特徴などを合わせて把握できるようにし ている。また家族などからの情報集にも努めて いる。	アセスメントツールは、特に決まっていなかったが、 全体的に基本情報やADL中心にものが多い。家族や 面会者、関係者等から情報を収集し、生活歴等を把握し ながら、本人本位の支援に努めている。	アセスメントについては、ADL等、現状 把握に重点が置かれている。困難ケース を踏まえ、より本人本位の支援を想定す るならば、潜在化する思いやニーズを推 し量る上でも、好みや生活歴等の把握、 及びアセスメントに記載することを期待し ます。
26		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環 境、これまでのサービス利用の経過等の把握に 努めている	利用に至るまでの生活歴や馴染みの暮らし方な どについて、家族や在宅時ケアマネージャーな どに情報提供を積極的に求めている。		
27		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する 力等の現状の把握に努めている	一人ひとりの生活のリズムに合わせ、集団生活 を強要するのではなく、本人が望む生活がす ごせるように努めている。		
28	(13)	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方 について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、 それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即 した介護計画を作成している	本人と家族の要望を踏まえた上でケアプランを 作成している。同法人の医師が利用者の主治医 であることが多く、医療面のケアについての留意 点などが円滑に収集できる。	本人・家族の要望を基に、関係者や職員等からの情報を 踏まえ、職員間で話し合いながら、本人本位の計画作成に 努めている。ケア会議には、医師の参加も見られ、本人の状 態に応じた計画作成、及び見直しがなされていることがうか がえる。	
29		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を 個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら 実践や介護計画の見直しに活かしている	個別記録や申し送り簿などを活用し、利用者の 状態の変化などの状況を職員間で共有でき るように取り組んでいる。		

福岡県 グループホーム けやき

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
30		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	急な外出や外泊、冠婚葬祭などの外出支援などに対応できるように取り組んでいる。徘徊などがみられる不穏時などに気分転換の散歩やドライブなどが適時行えるように環境を整えている。		
31		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域主催の行事への参加や、馴染みの方の面会を積極的に依頼することに努めている。		
32	(14)	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用の際に主治医の変更を強要することはないが、同法人の医療機関をかかりつけ医とすることにより、緊急時の不安や情報共有の円滑さが強化されることにより本人御家族の不安が解消できるように取り組んでいる。	かかりつけ医については、本人・家族の希望を尊重しているが、緊急時等の対応、及び平素の連携を考慮し、入居後、次第に近隣の同法人の医療機関にかかりつけ医を変更するケースが多い。かかりつけ医と緊密な連携を図りながら、本人本位の適切な医療が受けられるよう努めている。	
33		看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職員を配置しており、それに加え管理者も看護師資格を保有しており、常時看護師と介護職員とで相談できる環境にある。		
34		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院先が同法人の併設病院であれば、365日24時間病院関係者と情報交換や相談ができる環境にある。また利用者入院中は職員が可能な限り面会に行くように心がけている。		
35	(15)	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合の対応に係る指針に基づき、本人・家族・主治医・管理者を中心としてターミナル期を当事業所で迎えることができる環境を整備している。本人・ご家族の要望であれば同法人併設病院でターミナル期を迎えることもできます。	独自の指針に基づき、本人の意向を踏まえた対応を行っており、同意書も交わしている。家族や医師とも話し合いながら、情報を共有し、ターミナルの環境整備も行っている。	
36		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時・事故発生時対応マニュアルを整備し、対応が出来るようにしている。また、急変時や自己発生時併設病院に緊急受診できる体制が整っている。		

福岡県 グループホーム けやき

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37	(16)	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	緊急連絡網・自衛消防組織などの整備こそできたが、消防訓練が23年度中に実施できていない。併設病院の消防訓練には参加している。	緊急連絡網、自衛消防組織編制、また防火管理者の資格を有する職員も2名いる等、組織体制は整備されており、消防訓練についても、同法人の病院と合同で行っている。	訓練については、同法人の病院と合同で1度行われている。事業所独自の訓練も含め、内容についても、火災だけにとどまらず、地震、風水害等、幅広く想定したものの実施を期待したい。
<b>その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
38	(17)	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	職員の利用者に対する言葉遣いについて重要視しており、尊厳を傷つけることないように、言葉遣いに関する方針を作成し、研修も行っている。	事業所独自の倫理規定を作成。職員としての心構えを明記し、日頃から、特に言葉遣いに留意しながら、入居者一人ひとりの尊厳や、プライバシーの尊重に努めている。また毎日の衣服選びや、おしゃれ等についても、本人の意思を尊重している。	
39		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	職員の毎日の業務が、利用者の自己決定の妨げになっていないかなどを月1度の会議で話し合っている。また、日常会話の中から聞かれる利用者の希望を把握できるようにしている。認知症のため意思疎通困難な方は生活史などを参考にしている。		
40		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	集団での生活も大切にしているが、したくないレクリエーション活動や入りたくない日の入浴など一人ひとりの方の気持ちやペースを大切に支援している。		
41		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	散髪ボランティアによる散髪もできるが、馴染みの美容室への散髪も支援できるようにしている。また、マネキュアや化粧を希望時つかったりとおしゃれが出来るように支援している。		
42	(18)	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	朝食・昼食・夕食は基本的には職員が準備・調理・片づけをしているが、おやつ作りを利用者中心に行えるように取り組んでいる。	委託業者作成の献立を基本に、入居者の要望や嗜好、旬の食材を取り入れ、栄養バランスの取れた食事提供に努めている。一人ひとりの状態に合わせ、ペースト状や刻みにする等の対応を行っている。また月に数回、鍋をする等、家庭的な雰囲気作りを行っている。	
43		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	委託業者により栄養バランスは管理されている。栄養士によりバランスなどをさらに確認して提供している。スプーン・コップなど利用者の能力にあわせて使用している。		

福岡県 グループホーム けやき

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアを実施している。必要に応じて職員による磨きの仕上げを行い口腔内の清潔保持に努めている。毎食後の歯磨き終了後に歯ブラシ・コップを消毒している。		
45	(19)	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	職員が利用者それぞれの排尿間隔や排便間隔などを把握できるように取り組み夜勤帯オムツを使用する方でも日中はトイレでの排泄を試みるなど自立に向けた支援を行っている。	入居者各自の排泄パターンや習慣を把握し、一律の対応を行うのではなく、一人ひとりの状態に応じて、声掛け、トイレ誘導を行う等、自立に向けた支援に努めている。実際に、ニーズを把握し計画書に反映させている様子が、その記載内容から確認出来る。また専門委員会での取り組み等、事業所全体で取り組んでいる様子がうかがえる。	
46		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	利用者の排便間隔を職員が把握し、乳製品や運動により腸の活性化を促すなどし便秘の改善に取り組んでいる。状況に応じ主治医に相談し薬の服用などにより排便をできるように取り組んでいる。		
47	(20)	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	基本的な入浴予定日(夏3/週・冬2/週)はあるが、入浴予定日以外の希望入浴や入浴できない方の清拭などは臨機応変に対応している。	基本的には、週に2～3回の入浴であるが、希望に応じて、臨機応変に可能な限り対応している。	
48		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	夜間に眼を覚まし落ち着きがない方などに、職員と一緒にお茶を飲んで過ごしたりと個別に対応している。また、自分の好みの布団や毛布を持ち込んでもらうことなどにより、安眠できるように支援している。		
49		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	利用者の服用している処方箋をスタッフ全員が閲覧できるようにしている。また薬の準備は看護師が基本的には行うようになっている。		
50		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりの趣味・嗜好にあわせた行事・レクリエーションなどが行えるように取り組んでいる。		



福岡県 グループホーム けやき

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51	(21)	<p>日常的な外出支援</p> <p>一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している</p>	<p>利用者の体調にもよりますが、当日の急な外出・外泊にも対応できるように環境を整えています。また、畑での作業やドライブなど外に出て気分転換できるように支援しています。</p>	<p>その日の希望、体調、天候に応じて、日常的に事業所周辺の散歩に出掛けている。また畑作業に出掛けたり、スーパーへの買物、外食、ドライブ等、要望に応じた外出支援を行っている。</p>	
52		<p>お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>自分で金銭管理をおこなうことを理解した上で、ご家族と相談しながら金銭管理の支援に取り組んでいる。事業所で金銭管理をしている方でも、買い物した時には自分でお金を支払うなどの工夫をしている。</p>		
53		<p>電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている</p>	<p>電話の使用や取次ぎが自由にスムーズに行えるように支援しています。携帯電話の使用も行えるように事業所として取り組んでいます。利用者の希望に応じて手紙の代筆や代読を行っています。</p>		
54	(22)	<p>居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>開設して1年ということもあり、建物内・備品など新しく快適な環境が整っています。利用者の方が制作した作品の展示や季節の花を飾るなど心地よい環境で生活できるように心がけている。</p>	<p>室内は、全体的に採光良く明るい。各所に季節の飾り、手作り作品の掲示が見られ、暮らしに彩を与えている。居間に面した台所からは、食材を刻む等、調理の音が聞こえ、家庭的雰囲気を感じる。また6畳の和室スペースには掘りごたつもあり、くつろげる空間も確保されている。</p>	
55		<p>共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>ホールなどで、自分のペースで過ごすことも出来るようにしています。また、和室を用意しておりそこで足を伸ばして休憩できるようになっています。また、同建物の1Fの小規模ホーム利用者と談笑などして過ごすこともできます。</p>		
56	(23)	<p>居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>使い慣れたものや思い出のある品などがある環境で生活することの重要性を理解した上で、本人・家族と相談しています。思い出の写真などを飾るなど工夫しています。</p>	<p>各室には、ベッド、テレビ、クローゼット等が完備されている。使い慣れた物や、冷蔵庫の持ち込み等が見られ、本人本位で居心地の良い空間作りに努めていることがうかがえる。</p>	
57		<p>一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>手すりの設置・エレベーターの設置・入浴リフトなど工夫をすることにより、できることが継続してできるように、できなかったことができるようになるよう取り組んでいる。</p>		